



昭和初期の本堂（戦時中の空襲にて焼失）



第 17 号
玉寶山長光寺

〒169-0073
東京都新宿区百人町1-5-2
TEL:03-3209-5360
FAX:03-3200-7026
<http://www.chokoji.net/>



坐禅終了後、本堂にて法話を聞く参加者



謹賀新年

ごあいさつ

住職 松 倉 太 鋭

本年は未曾有の東日本大震災が起りました。海原は裂け、大地は荒ぶれ、多くのいのちが失われました。素朴で善良な東北の人々に対し、日本全体が復興と鎮魂の願いの日々でありました。

人間は大自然の中に「生かされている生きる者」であります。そのことを忘れて大自然を開発して、都合よく改造していくことが、文明社会の繁栄と想ってきたのです。この度の原子力発電所の事故を私たちの生き方の反省する契機にしなければなりません。

昔の日本人は天災を世直しの転機としてまいりました。ピンチをチャンスにしてきたわけです。自然の恵みに感謝して、つつしましく生きる謙虚さこそ、「人間の幸せ」の原点であるのではないのでしょうか。

しかし、あれから半年過ぎてみると、はや震災は過去のものとして忘れそうになっています。このことは簡単に忘れ去る問題でなく、日本人全体の問題としてとらえ、心はいつも震災に遭った人たちと共にあるべきでしょう。

日本の美しい自然は、災害も多いことも忘れてはならない教訓です。

あすは春(正月)と云う夜
なにとなく心さやぎていねられず
あしたは春の初めと思えば
良寛

長光寺の歴史

長光寺は、いままで徳川家康の江戸入府にともない、百人組鉄砲隊駐屯とともに建立されたと伝承されてきました。しかしながら、裏付けとなる古文書等がまったくありません。太平洋戦争の東京大空襲（昭和二十年三月十日）の焼夷弾爆撃によって伽藍は灰燼に帰してしまっただけです。かろうじて残ったのは疎開していた本尊さま（釈迦如来と薬師如来）と過去帳だけでありました。

平成十年に住職に就任しました。とにかく本堂の再建をしなければなりません。それと並行しながら長光寺の歴史を調べに図書館へ行ったりしましたが、よくとして手掛かりがなく、建立された年は依然不明のままでありました。



昨年も鉄砲隊が来てくれました（9月23日）

歴代の住職の名前は幸い先代の故眞一利子氏より預かった書面がありまして、これを手掛かりに位牌をつくり祀ることにいたしました。

本堂建築に着手してからも、相変わらず長光寺の歴史については不明のままですが、工事が進んでおりましたので、建設の傍ら地域の伝承文化に精通している人に何気なく聞いてみたり、あるいは鉄砲百人組の歴史を調べている人がいると、伺ってみたりしているうちに、なんとなく、いろいろな資料が集まるようになりました。何かを願いながら行動すれば、どこか通じるのです。

何人かの手を煩わし集まった資料のなかに文政十年に編纂された『文政寺社書上』という古文書がありました。この中に長光寺のことが載っていることが判明しました。この文書は時の幕府（寺社奉行所）に長光寺の歴史と、敷地の見取り図を届け出たものです。この文書によって、ようやく、当初のおぼろげな寺の姿が見えてきました。

- この書面に、
- 「玉寶山長光寺、大久保南百人町、牛込宗参寺末、境内除地千五百十五坪
- 余、開闢年代相知れ申さず候。但し、鐘銘に文禄三年の由相見え申し候。
- 開山得州玄可和尚 寛永九子六月六日寂。
- 中興海翁寒利和尚 元文四未年十月十三日寂。
- 開基直心軒祖道円成居士 慶長二酉年三月朔日卒。

右開基は武田氏の人と記録にこれ「有り候」（原漢文）

この文書から推察すれば、寺が開かれた年代は不明であるが、鐘樓の鐘の銘に文禄三年ということが彫られている。寺を開いた方は得州玄可和尚という方で、実際の開山（寺を開いた人）は二代目の海翁寒利和尚という方であることが判明しました。寺の開山という名譽を自分の名にしないで、師匠の名にしたことは間違いないところで、師弟の奥ゆかしいものを感じます。

また、開基（寺を建立した寄進者）は甲州の武田氏の遺臣（法名は直心軒祖道円成居士）で建立されたことが、この古文書から読み取れます。

当初は、武蔵野という名に似合う原野にささやかな御堂が農地にかこまれてあったことが想像されます。

文禄三年（一五九四）という年は秀吉の朝鮮征討（天正十九年・一五九一）から数年後です。朝鮮との戦いがこう着状態から休戦和議にかたむいていた年で、文化の爛熟期を迎えた安土桃山時代のことでです。

翌年の文禄四年には関白秀次を石田三成が詰責し、高野山に幽閉して自刃させ、更に三条河原で子女を処刑するというむごたらしい事件があつて、秀吉政権崩壊の兆候がみえだした頃のことです。

（続く）

参禅会より

毎月第一土曜と第三土曜（第二土曜と第四土曜は団体のみ）の二時より行っている坐禅会は日を追うごとに参加者が増え、二時よりは毎回参加の方々、三時半より初心者の方々の、二座に分けて開放しております。

十二月の一日から七日まで臘八撰心（一週間の坐禅）が始まります。夜の坐禅には勤め帰りのサラリーマンも参加して熱心に坐っております。

坐禅会を始めた当初は、参加者が三、四人という時が長く続きました。このままでは先細りになるのではないかと思ひ、インターネットにホームページを開設した途端に参加者が増え、今更ながら、ネットの持つ威力を感じました。長光寺は都心の坐禅道場の寺といったイメージが定着したような感じがいたします。

曹洞宗の教えを学ぼうと思つたら、まず坐禅をすることです。檀信徒の皆様もお寺の先祖の墓参りと併せて、自己を見つめ、自分の中の仏様を見出す坐禅をしてみることがお勧めいたします。



秩父観音霊場に参拝

去る十月三十一日に檀信徒の方、梅花講、写経会、参禅会の有志で秩父観音霊場の巡礼に出かけました。昨年、一番より始めて十一番札所まで廻ったので本来ならば四月八日に行く予定でした。しかし東北震災を目の当たりにして自粛。秋に順延したわけです。

この日は天気予報では朝は小雨、それから曇天ということでしたが、幸い日中は晴天に恵まれ、十二番から二十五番まで和氣譚々の内に廻りました。それぞれの札所にはいろんな趣があり、秋の一日を楽しく巡拝することができました。最後は、つるべ落としの陽に追われるようにうまく時間内にお参りを終えました。二十六番から三十四番の満願札所まで、もう一回です。桜の季節に又、お参りをしたいと存じます。



第23番音楽寺にて

途中からではありませんが、参加希望の方は是非この機会に仏縁を結んでいただきたく思います。一緒に観音巡りをいたします。申込みはお早めにご連絡下さい。

秩父観音巡りに参加して

小倉 光雄



筆子塚について

秋晴れの十月末日 檀家、御詠歌、写経、坐禅の方々と秩父観音巡り(十二寺〜二十五寺)に参加させて頂きました。坂東三十三ヶ所、秩父三十四ヶ所の日本百観音巡りの初めての経験でしたが、住職ご夫妻のご先達と戴いた「慈光」を頼りに各寺毎に般若心経を唱え、御詠歌を奉じ、納経・御朱印という目的を全員が達成いたしました。

御詠歌が寺院毎にあることを知り、なかでも秩父事件(明治十七年)にゆかりのある二十三番、音楽寺での御詠歌の旋律は周囲に響きわたりました。

今回初めてお会いした方々とも和氣譚々となり、車内で次々と回ってくる差し入れのうれしさ、つい手が伸びてしまい、弁天堂の秋の味覚のデザート付の食事もおいしく、満足できた格安バスツアーでした。

私が印象に残ったのは十六番、西光寺でした。回廊内の四国八十八ヶ所の仏像を鑑賞しながら巡り終わって外に出ますと「筆子塚」が建っており、うれしくなりました。というのも「寺子屋」をご存知と

思いますが、江戸時代の庶民の学校で、江戸末期に全国に一万五千五百ヶ所もあり、明治維新の際に近代化へスムーズに対処できたのもこの学問の底力があつたからだと思えます。生徒達が寺子屋の師匠を敬愛しその記念に建てた「筆子塚」が秩父に残っていたのです。当時の師匠には武士・浪人・隠居・神官もいましたが、僧侶が最も多く寺子屋と称されていました。

日本がこれからもっと素晴らしい国になるには教育が基本だと思っており、私は毎週金曜夜に地元公民館で「川口自主夜間中学」という現代の寺子屋活動をボランティア仲間としています。

名刹長光寺の歴史も学び、長光寺独自の御詠歌の誕生を心より念っております。

皆様、本当に有難うございました。次の機会を楽しみにしております。

感謝 合掌



「筆子塚」全景

※「筆子塚」の写真は神山さんからのご提供です。

春夏秋冬

長光寺の弟子、永平寺へ上山。



大本山永平寺上山記念 平成23年3月8日

今春、大学を終えた長光寺の徒弟松倉徳允は三月八日に、福井県にある大本山永平寺へ上山いたしました。まだ積雪の残る古道場に網代笠、袈裟行李に手甲、脚絆のいでたちで上山いたしました。ちょうど三月十一日の東日本大震災日には入門前の旦過寮（新しく上山した修行僧がいる場所）にいたので北陸のためか、揺れも少なかったようです。仲間には実家が震災に遭った人もいたそうです。

今までの生活とは全く違い、毎朝三時半起床で、お粥と麦ごはんはと僅かの葉物だけの質素な食事、規律の厳しい

自由の無い生活です。もとより東京の生活の延長というわけにはいきませんが、普段の生活とはかけ離れた毎日、「若い時の苦労は買ってもせよ」とも言われています。自分を鍛えて将来に役立つ貴重な経験を積んでくれると思います。

いままで、大庫院（食事を作る場所）にいましたが、雪が降る季節になって侍真寮（宗祖の廟所）という場所で宗祖にお仕えしています。

ここは永平寺の中でも一番大変なところで朝は午前一時半に起床し、白山水を汲み、道元禅師にお供えすること

から一日が始まります。日々の公務は厳しいものが宗祖にお仕えできるといって、とても有難いところでもあります。身をつくし心を込めてお仕えし、尊い教えを学んでもらいたいと願っております。

長光寺の年間行事(平成24年)

一月朔日〜三日

新年祈禱と年頭行事（新しい年が平穏な一年でありますよう祈禱する行事です）

二月一日〜七日

報恩撰心（二週間の坐禅会です）

二月十五日

涅槃会（お釈迦さまの入滅の日）

三月二十日

春の彼岸会（皆様の御先祖さまへ報恩供養する期間です）

四月八日

花祭り（お釈迦さまの誕生の日）

五月二十三日

恒例の施食会（法話と法要）

（皆様の御先祖さまへ報恩供養する大法要です。御法話と御詠歌をおとなえいたします）

七月十三日〜十六日

孟蘭盆会（お盆の行事です）

九月二十二日

秋の彼岸会（皆様の御先祖さまへ報恩供養する期間です）

十二月一日〜八日

臘八撰心（二週間の坐禅会です）

十二月八日

成道会（お釈迦さまの悟りの日）

その他月例行事として、

第一、第三土曜日 参禅会

第二、第四月曜日 梅花流詠讚歌

写経教室

第一、第三土曜日 参禅会

第二、第四月曜日 梅花流詠讚歌

写経教室

第一、第三土曜日 参禅会

第二、第四月曜日 梅花流詠讚歌

写経教室

*春に秩父観音霊場参拝、秋に講演会の予定。

編集後記

▽長光寺のいま。

大久保界限は今や韓流のメッカとして毎日歩道から人が溢れんばかりの様相をみせています。百人町職安通りもその余波を受けて、中年や若い女性たちの集う場所になって、ハンガルの看板が目立つ街になりました。みんなグループで行動して独りだけの人は殆ど見受けません。韓流スターのグッズを買ったり、韓国料理店で食事をして好きな俳優の情報を交換したり、露天の料理をほおばったりして街を歩いています。

私は九月に渡米しまして、ロサンゼルスとサンフランシスコを訪ねました。この寺はリトルトルキョウのそばにあるため、車で向かいましたところ、車窓の風景はやはりハンガルの看板が多く目立ちます。日本人街をはるかに超えた規模で、いまさらながら韓国のパワーをみせつけられた思いです。

韓国の教育熱は過熱気味のようにです。日本と同じ事情、つまり資源が少なく、国土も狭いということもあって、師弟の将来に期待する気風は似たもの同士のところもあるでしょうが、韓国人気質に由来するその情熱と向上心は日本人を超えるものがあります。

これらの是非は別として、日韓の親善と文化交流が深まるならば喜ばしいことと言えるでしょう。ただ、いつまでも日本優位が通用しないことは間違いないことです。

